○炭焼きと弘法大師

昔、協和村稲沢のある炭焼き小屋に、一人の坊さんがきて、炭焼きの仕事をだまつてみていた。炭焼きは坊さんに関係せずどんどんかまから真赤に燃えている炭を出していた。すると坊さんは、炭焼きに向い、かまの中へ木を積むにはどんなふうにするものかと尋ねた。炭焼きはからかい半分に、火を焚いてから釜の中に積むものだといつた。そのうち炭をみなかまからだしてしまつたら、坊さんは木を積むのは私にやらせて欲しいといつたかと思うと、つかつかとかまの中に入り、まだ残つて燃えている炭の上に木をどんどん積んで、こんな具合でよいとかというので、炭焼きはただびつくりどうてんし、おろおろするばかりであつた。これを聞いた人達は、弘法大師様だろうといいあつた。それ以来その沢では炭を焼いても木に火がつかなくて炭焼きができなかつたという。

（稲　沢）